

Fujitsu Climate and Energy Vision

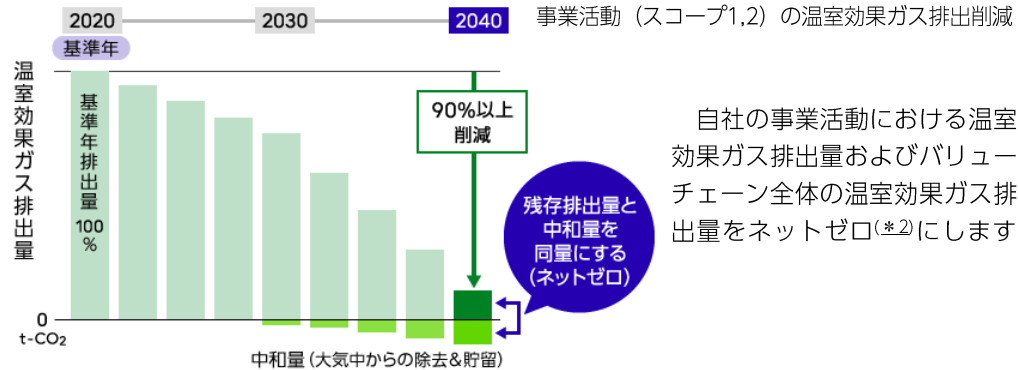
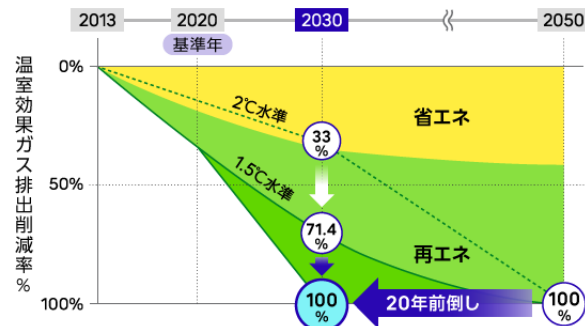
富士通グループ中長期環境ビジョン「Fujitsu Climate and Energy Vision」に基づきGHG排出量の削減目標を設定し、気候変動対策に取り組んでいます。

Fujitsu Climate and Energy Vision

グローバル社会におけるカーボンニュートラルへの取り組みが加速する中、富士通グループが果たすべき社会的役割を再検討し「2050年度に富士通グループ自らが排出するCO₂をゼロエミッション」としてきたこれまでのビジョンを20年前倒して2030年度にゼロエミッション達成を目指すこととしました。さらにバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量を2040年度にネットゼロとする目標を策定し、2023年6月にSBTi^{(*)1}より「ネットゼロ」の認定を取得しました。(続き: [Fujitsu Climate and Energy Visionのサイトへ](#))

ネットゼロの実現に向けたロードマップ

2021年4月に「2030年度に2013年度比33%削減」としていた目標を「71.4%削減」に更新し、SBTiより1.5℃シナリオに整合する認定を受けました。さらに、これまでの目標を強化し「2030年度に100%削減(2020年度比)」とします。



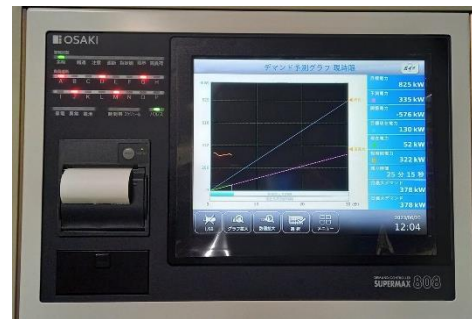
バリューチェーン全体 (スコープ3) の温室効果ガス排出削減

*1 SBTi: パリ協定で示された科学的根拠に基づく温室効果ガス排出削減目標を企業に推奨・支援するイニシアチブ
 *2 温室効果ガス排出量ネットゼロ: 温室効果ガス排出量を目標年度に基準年度の90%以上を削減し、10%以下となった残存排出量を大気中のCO₂を直接回収する技術(DAC)の活用や、植林などによる吸収で除去すること。

富士通フロンテックグループの取り組み

「Fujitsu Climate and Energy Vision」の達成に向け「富士通フロンテックグループ環境行動計画」のテーマとして「事業所におけるGHG排出量の削減」を掲げ、単年・中期の指標を設定して取り組んでいます。

再生可能エネルギー(再エネ)の適用拡大をはじめ、LED照明など高効率機器への設備更新、加えて拠点合同の省エネ委員会の開催や省エネパトロールの実施、電力使用量の見える化などの運用面での改善を通じて削減努力を行ってきた結果、グローバルでの当社グループの2022年度の実績は、対2013年度比でマイナス3,565トン-CO₂(32.3%減)となりました。(詳細: <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/about/sustainability/environment/climate-action/>)



電力使用量の見える化



省エネパトロール

GHG排出量削減目標の達成に向けて

「第11期富士通フロンテックグループ環境行動計画」では「Fujitsu Climate and Energy Vision」の2030年度までのロードマップの実現を見据え「2025年度末までに事業所におけるGHG排出量を2020年度比で30%以上削減」を目標として掲げ、目標達成に向けてグループ一丸となって取り組んでいます。

主な対策として、2021年度から国内および海外グループ会社のFDTPで導入を開始した再エネの適用拡大を推進中で、2025年度末までにグループ全体の使用電力の37.2%に相当するFIT非化石証書を取得する予定です。

また、FDTPでは、2019年11月に発効されたフィリピン版省エネ法(共和国法第11285号)の要求に基づき、エネルギーマネジメントシステム(EnMS)を構築し、エネルギー管理者の選任や省エネ委員会の開催など、工場内のエネルギー管理を強化しています。